

スウェーデンにみる ホストセンターの未来図 から

加瀬 進（東京学芸大学）

スウェーデン<個別支援計画>3つのライン

誕生



就学



進学



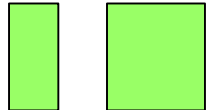
就労



医療ライン

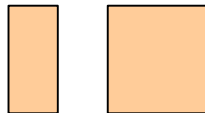
HSL(保健・医療法)による児童・青年の(リ)ハビリテーションプラン

教育ライン



SL(学校教育法)による個別発達支援計画と対策プログラム

福祉ライン



LSS(機能障害者支援・サービス法)による個別計画IP



© SNA

調査地1: Växjö市 - Kronoberg県 -
人口: 79,500 面積: 1673km²

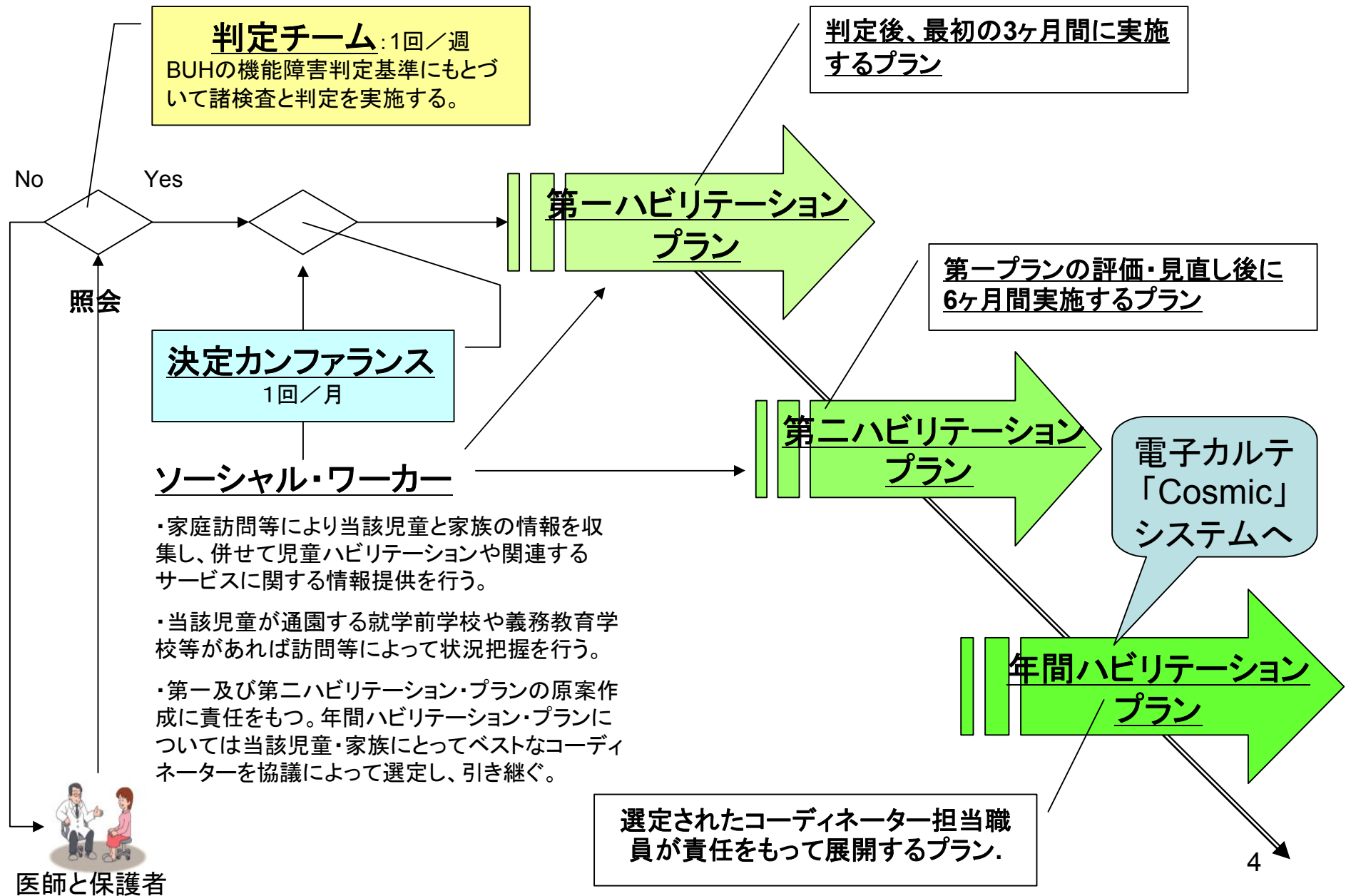
調査地2: Kristianstad市 - skåne地方 -
人口: 77,000 面積: 1254km²

3つのラインの概要と関係を2市で調べてみました。

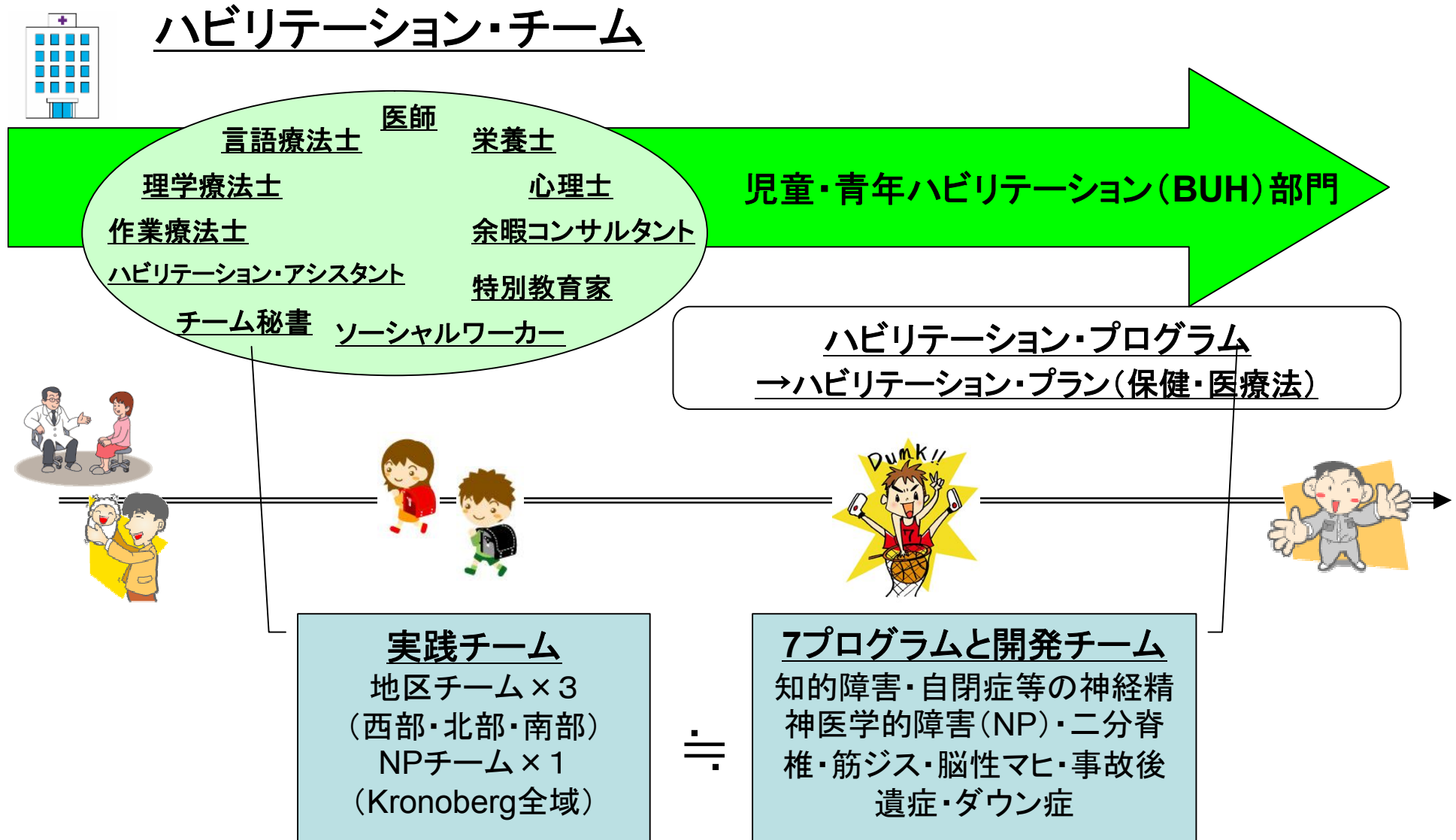
医療ラインにおける ＜個別支援計画＞

ハビリテーション・プランの概要

ハビリテーション・プランの策定プロセス –Kronoberg 2007/08–



ハビリテーション・チームの構成 —Kronoberg 2007/08—



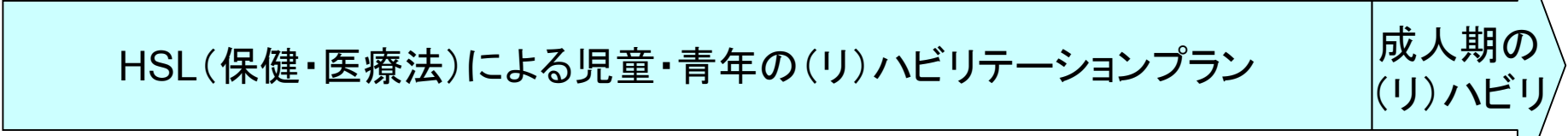
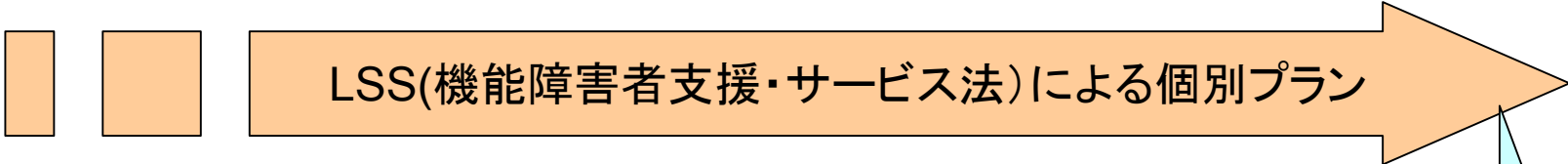
各々の専門性を活かして7障害別のプログラム開発担当となる専門職が実践チームを構成する。 ⁵

教育ラインにおける ＜個別支援計画＞

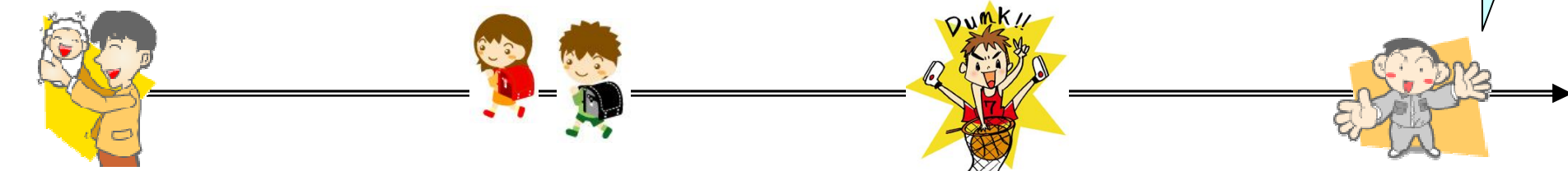
個別発達支援計画IUP

対策プログラムÅtgärdsprogram (IEP)

リソースフォーラムとリソース学校



成人期の
(リ)ハビリ



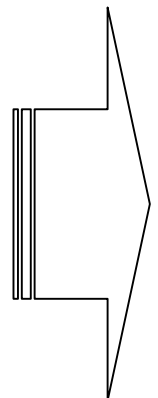
0/1

5/6 6/7

12/13

15/16

幼稚園		学童保育等の諸活動	
保育園	就学前 クラス	基礎学校/9	高等学校 /3
		知的障害学校/9(10) (知的障害基礎学校,訓練学校)	知的障害 高等学校/4
		特別学校(視覚・聴覚障害)/10	
		サーミ人学校/6	

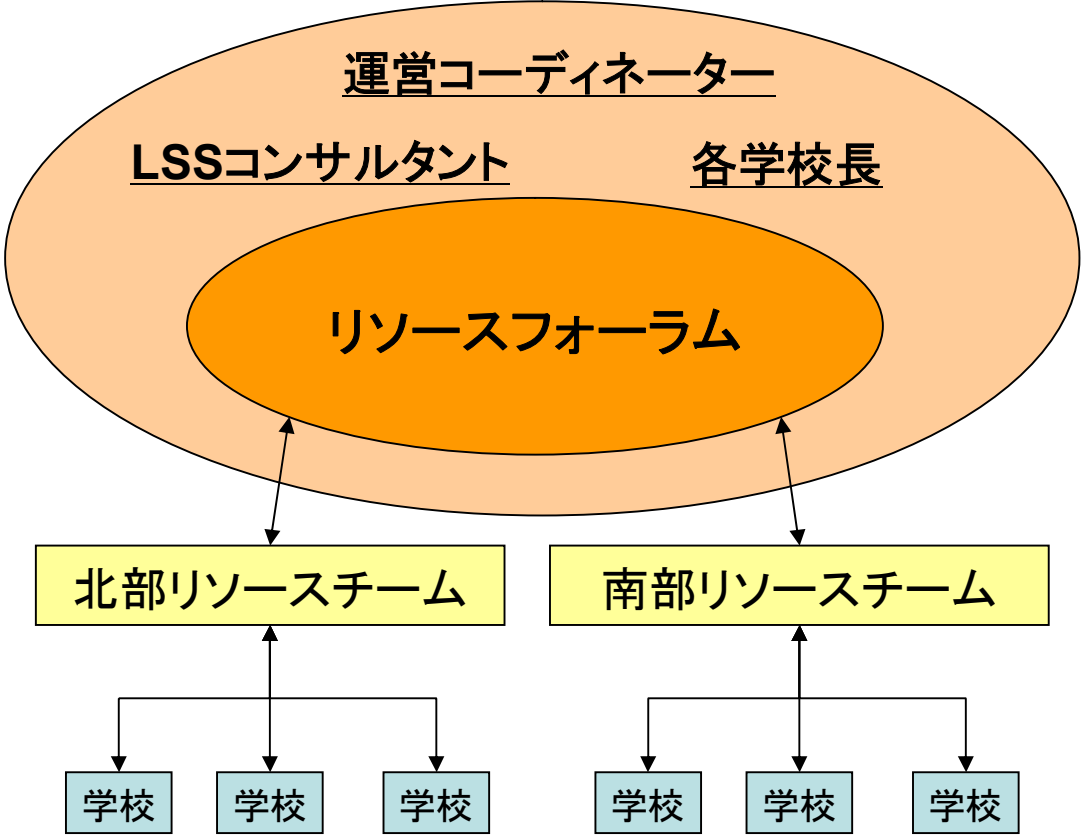


- 就労
- Samhall
- 日中活動
- 社会教育
- その他

**SL(学校教育法)による個別発達支援計画IUPと
&対策プログラムIEP**

教育・児童援護委員会のBBSS部門
BBSS＝特別な支援を必要とする児童

BBSS部長

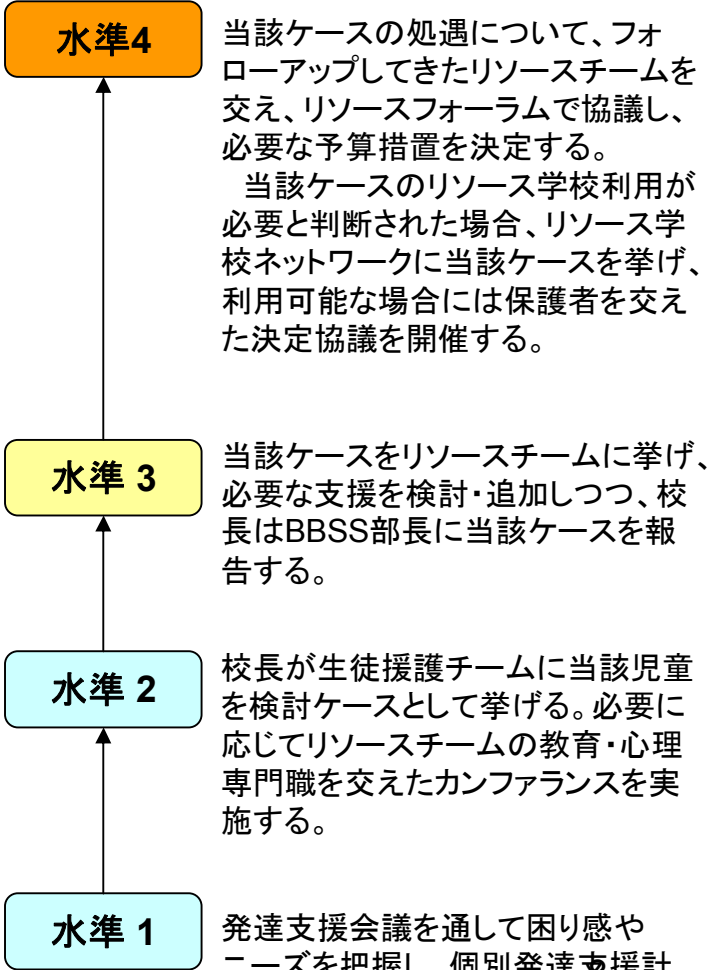


学校教育法及び教育課程基準に基づき、各市・各学校ともにインクルージョン志向の教育計画・学校経営計画を立て、6年に1度、監査を受ける。また、国の補助金もインクルージョン志向の施策に付く。

Växjö市における

BBSS部門のプロセス

<Barn i Behov av Särskilt Stöd>



水準4 当該ケースの処遇について、フォローアップしてきたリソースチームを交え、リソースフォーラムで協議し、必要な予算措置を決定する。
当該ケースのリソース学校利用が必要と判断された場合、リソース学校ネットワークに当該ケースを挙げ、利用可能な場合には保護者を交えた決定協議を開催する。

水準3 当該ケースをリソースチームに挙げ、必要な支援を検討・追加しつつ、校長はBBSS部長に当該ケースを報告する。

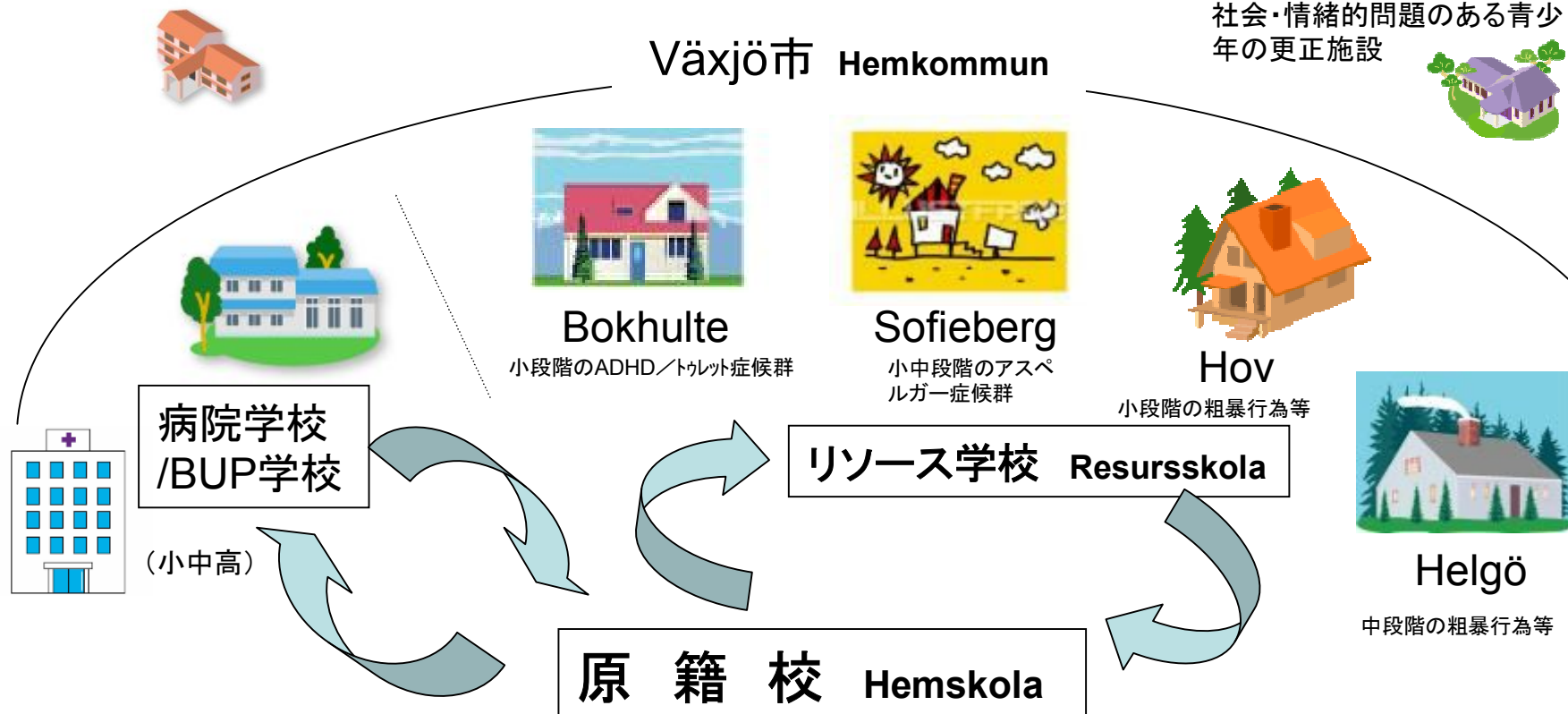
水準2 校長が生徒援護チームに当該児童を検討ケースとして挙げる。必要に応じてリソースチームの教育・心理専門職を交えたカンファランスを実施する。

水準1 発達支援会議を通して困り感やニーズを把握し、個別発達支援計画、対策プログラムを策定・実施する。根拠法は学校教育法。

原籍校 (Hemskola) とリソース学校 - 分離的統合の実現を目指す社会資源 -

国立盲・聾学校、リソースセンターの寄宿教育

青年ホーム (Ungdomshem) :
社会・情緒的問題のある青少年の更正施設



通常学級における個別・グループでの支援教育～特別指導グループ

移民に対する母語教育

個別プログラム Program・IV

基礎学校・知的障害学校 (基礎学校・訓練学校)

高等学校・知的障害高等学校

在宅学習, サマースクール, 読み書きフォーラム、他

2市におけるリソース学校の規模・対象像等について

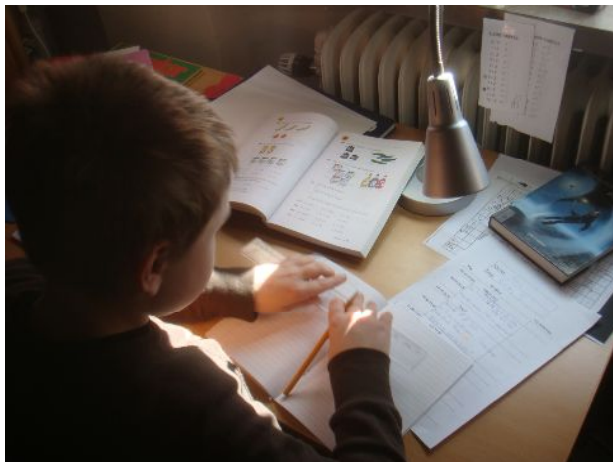
学校名	定員	対象学年	生徒像	教育目標・方法
<Växjö市> (人口79,500)				
Bokhulte	6	F~6	ADHD/DAMP等	自立・安全・学ぶ意欲・知識
Sofieberg	12	5~9	アスペルガー/HFA	* 個に応じた指導/寄宿制
Hov	12	F~6	社会情緒的課題	原籍校復帰
Helgö	7	6~9	社会情緒的課題	3教科における「合」獲得
<Kristianstad市> (人口77,000)				
Nymö	12	1~6	発達障害(NP)	自立・安全・学ぶ意欲
Råbelöfstorps	8	4~7	発達障害(NP)	知識・社会的能力・健康
Grand Prix	8	5~9	攻撃性・衝動性	* ART: 攻撃性置換訓練
Tordyvelns	8	F~4	発達障害(NP)	原籍校復帰
Östra Sönnerslövs	16	5~9	攻撃性・衝動性	* ART: 攻撃性置換訓練

* 対象学年の「F」は就学前学校クラスを表す。

両市ともに、義務教育段階相当の児童数は8000人内外である(2007)。

リソース学校の情景

Östra Sönerslövs Resursskolan (Kristianstad市)から



日課の例:Grand Prix Resursskolan

- 8:30／教育学的朝食～＜情緒温度計＞報告
- 9:00／グループ別・個別学習
 - CAT-kit(認知情動訓練法を用いた個別指導)
- 10:00／休憩
- 10:30／ARTセッション(道徳学習)
- 11:30／昼食～スポーツ
- 12:30／グループ別・個別学習
 - 実習先挨拶から「クオリティ・タイム」へ
- 14:30／おやつ
- 15:00～15:30／帰宅・地域の放課後活動へ

リソース学校の中ではごく穏やかな少年・青年たち。
しかし、休み時間のスポーツゲームなどでアグレッシブな片鱗もみせる。

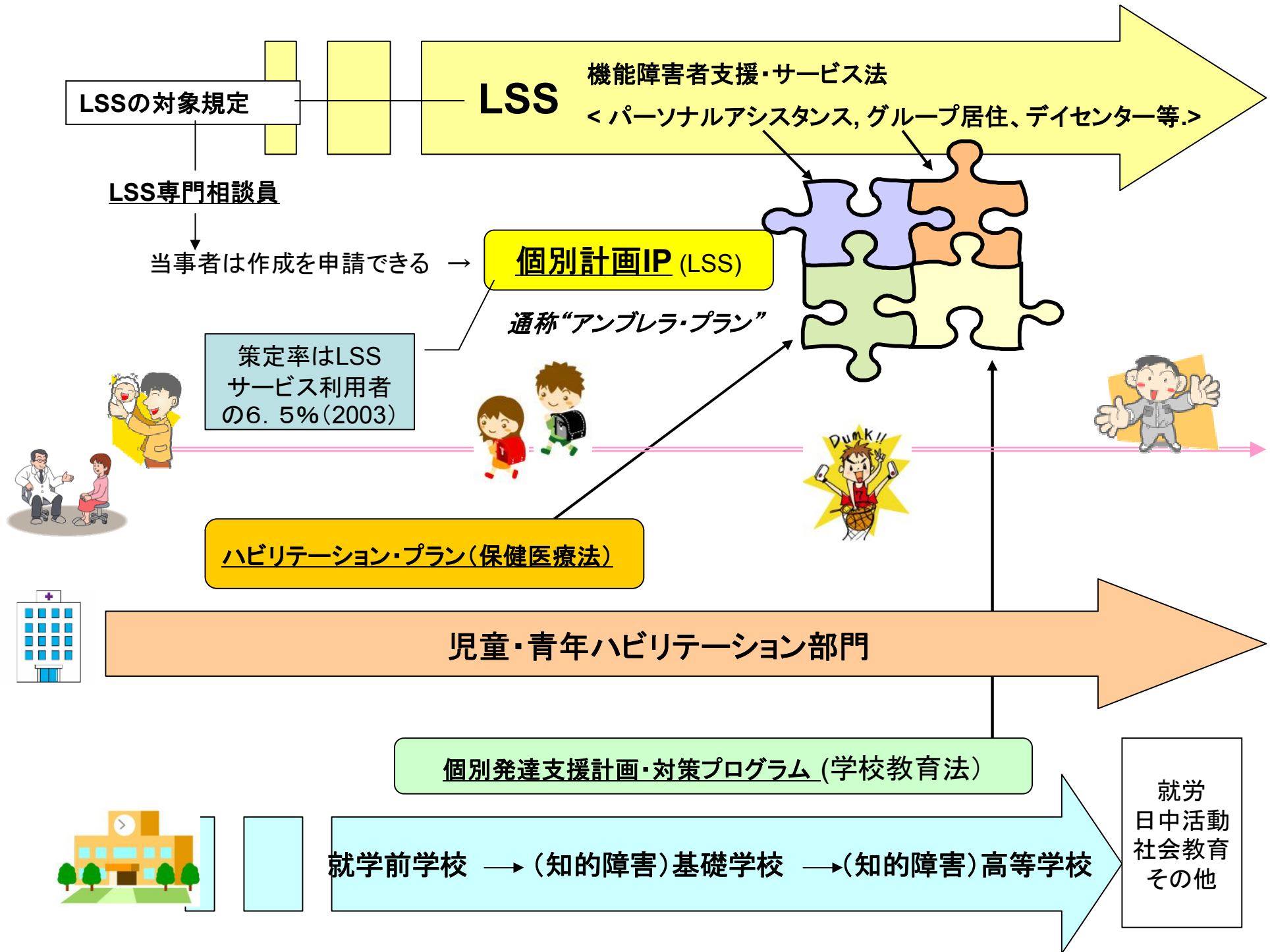


リソース学校の実際

- 児童・生徒の現状
 - リソース学校では落ち着きを取り戻すが、中学段階になると原籍校復帰が難しい。
- 原籍校復帰について
 - スモールステップによる復帰を試みるが、原籍校の受け入れレディネスにも左右される。
- リソース学校の利用プロセスについて
 - 学習の遅れではなく、行動問題を重視する。
- リソース学校をめぐる課題
 - 発達障害(NP)問題の研修と家族支援が必要なケースへの対応充実が求められている。
- 相対的に高額な運営費
 - 校長の給与と賃貸料を除いた運営費ベースで基礎学校の6～7倍であり、簡単に増やせないということの両義性がある。

福祉ラインにおける ＜個別支援計画＞

伸び悩む「個別計画IP」をめぐって



個別計画IP:あり方をめぐる論点

- 本人のニーズ主導型の有用なツールである。
- 一方で、LSSにおける<権利規定>という性格が負の「申請主義」を招いている。
- 当事者に対する情報提供不足こそが問題。
- 職員プランではなく、<マイプラン>である個別計画IPを推進する戦略が必要(→2002最終報告提言)。



直近の動向

- 総合的な<調整プラン>策定に関する通知(SOSFS2007:10)。
 - ランスタイングが責任主体となっている(リ)ハビリテーション・サービスとコムーンが責任主体となっている福祉サービス・歯科衛生サービスの連携を強化するため、両者がこれらサービスのコーディネーションに関する手続きを明確化した上で、必要に応じて総合的な<調整プラン>を策定する。

まとめ: ホストセンターの実現に向けて

- スウェーデン南部・二つの大学街の取材から得た示唆
 - ハビリテーション・プランを核とするホストセンター・システム
 - 保護者の信頼と期待を得る「早期チーム支援」実践の積み上げ。
 - 「早期チーム支援」を強い社会制度の中に位置づける施策。
 - 子どもと家族、医療機関、教育機関、福祉機関をつなぐソーシャル・ワーカーの明確な位置づけと社会的ステータスの向上。
 - <個別支援計画>の縦と横の連携に加え、個人～機関～自治体～国といった階層間の一貫性・相補性の担保。
 - <分離的統合>を志向する社会資源(リソース学校)の存在
- 日本で取り組みたい当面の課題
 - 「早期総合支援」体制づくりに関する実践・研究・運動の強化
 - 地域自立支援協議会＋特別支援教育連携協議会の普及と児童期を担う部会等の必須化・機能化。
 - 地域特性に応じた<ホストセンター(機能)>構想の策定と実践
 - (特別支援)学校の<センター的機能>の可能性・見通しと相談支援事業の可能性・見通しの検討、目標設定、ロードマップの策定